

【樹木・草花の部屋】

シュウメイギク（キンポウゲ科イチリンソウ属 *Anemone hupehensis* var.

japonica)

和名; シュウメイギク (秋名菊) **別名**; キブネギク (貴船菊) **英名**; Japanese thimbleweed、
Japanese anemone

キンポウゲ目 宿根草

原産地; 中国

花言葉; 忍耐 薄れゆく愛 **花の色**; 白、濃～淡ピンク、紅など



← 写真－1 シュウメイギク

撮影日：2012年10月20日

撮影場所：奈良県大和郡山市

M邸にて

撮影者：Mさん

本州、四国、九州の山野や里山に自生し毎年花を咲かせる宿根草です。

日本原産ではなく、古い時代に中国からやってきて、野生化したもの言われています。淡紅紫色八重咲きのキクに似た花を多数つけるのが基本形。別名のキブネギク(貴船菊)は京都の貴船で多く見られたことに由来します。和風の庭園に似合い、茶花としても利用されます。

写真－2 シュウメイギクの花 ⇒

撮影日：2012年10月20日

撮影場所：奈良県大和郡山市

M邸にて

撮影者：Mさん



【樹木・草花の部屋】

写真-3 シュウメイギクの葉 ⇒

撮影日：2012年10月20日

撮影場所：奈良県大和郡山市

M邸にて

撮影者：Mさん



<ちょっと一言>

園芸品種は和洋あまり制限なく幅広いシーンでマッチします。

漢字で書くと「秋明菊」、9月～10月の秋まっさかりな時期に開花する名前通りの花です。アネモネの仲間では英語ではジャパニーズ・アネモネ(Japanese anemone)と呼ばれます。

ジャパニーズアネモネは欧州でタイワンシュウメイギクとの交配によって育成されたもので、一重、八重、あるいは白、桃色など品種があり、これも含めてシュウメイギクと呼ばれているそうです。一重の花は、花弁ではなく萼で、八重は萼と雄しべが花弁化したもの。草丈は 50cm～1m、地下茎をよく伸ばして広がっていきます。茎は途中で枝化されしてその先端に花を咲かせます。花びらに見えるものは色づいた萼で、やや細長く 20～30 枚付きます。冬には茎葉が枯れて、春に再び芽を吹くまで休眠します。花色は紅紫色や白です。白花種は花びらにふっくらとした丸みがあり、萼片の枚数は少ない。

シュウメイギクとネパール原産のアネモネ・ビティフォリア(A. vitifolia)を掛け合わせて作られた園芸品種アネモネ・ヒブリダ(A. ×hybrida)も、シュウメイギクとして普及しているそうです。栽培されているのはこちらの方が主流かも……。本来のシュウメイギクより草丈が高く 1.5m ほどに……。花色は白、濃～淡ピンク、紅などがあります。代表的な品種にレディ・ギルモア、モン・ローズ、プロフェュジョンなどがあるそうです。

【花のアルバム】

こんな色もあります。ピンクのシュウメイギク 品種は不明です。

		
撮影日：2010.10.17 撮影場所：広陵町 S 邸にて 撮影者：S さん	撮影日：2011.9.8 撮影場所：広陵町 S 邸にて 撮影者：S さん	撮影日：2011.9.27 撮影場所：広陵町 S 邸にて 撮影者：S さん